

令和7年度岡山・鳥取両県知事会議 議事録

日時：令和7年10月31日(金)13:00～14:15

場所：奥津振興センター(岡山県苫田郡鏡野町)

<開会>

○万代総合政策局長

それでは失礼いたします。本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和7年度岡山・鳥取両県知事会議を開会いたします。

私は、本日の会議の司会を務めさせていただきます、岡山県総合政策局長の万代でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして開催県であります岡山県の伊原木知事からご挨拶を申し上げます。

<両県知事あいさつ>

○伊原木知事

岡山県の伊原木でございます。本日は、平井知事をはじめ、鳥取県の皆様方ようこそ岡山県へお越しくださいました。

まずもってお詫びをしなければいけないわけでございますけれども、晴れの国おかやまということで、当然、岡山県も毎日晴れてるわけじゃないんですけれども、毎日晴れたら砂漠になっちゃいますから、ただそうは言っても、大事な方が来られるときには晴れにするというのが、大体私のこれまでの流儀であったんですけど、本当にぬかったというか、申し訳ないの一言でございます。

今日は本当に、平井知事とカヤックを一緒にするのを楽しみにしておりました。奥津湖は本当にきれいな湖でありまして、周りの山や地域も綺麗ですし、それをぜひ岡山は岡山で流すと、香川もそうですし、島根もそうですが広くお伝えをする大チャンスだったんですけれども、申し訳ないということでござい

ます。

それはそれとして、モンベルさんに新しいお店をオープンしていただいて、モンベルさんがここにすごいお店を作ってくださったのも、平井知事が「シートゥーサミットすごいよ、大山でやって最高だったよ」ということをみんなに伝えて、私もちょっと何とかってということで、数年遅れで鏡野町でシートゥーサミットさせていただきました。それでモンベルさんと仲良くなって、大山のお店がまたすごいんだそうですけれども、大体私のよくあるパターンでありまして、何年遅れかで少しずつ平井知事のあとを追いかけていくっていう、追いかけていってどんどん差が広がっているような感じがするのがちょっと気になります、どんどん先に行かれるものですから。そういうことでいろいろ教えていただきながら、賑やかになって、先ほどご指摘いただきました山田養蜂場さん、鏡野町の企業であります、元々蜂蜜を作っておりまして、蜂蜜を作っている会社は、日本でもたくさんあるわけですけれども、そこからどういうふう健康に良いものにしていくのか、食べるっていうだけではなくて美容と健康もどうなんだってということで、本当に素晴らしい発展を遂げているということで、景色が綺麗なだけではなくて、それを使って人々の暮らしを豊かにしていく、みんなが買いたいと思えるようなものを作っていくのを、ぜひ両県でいろいろ話し合って、そんなきっかけを作っていきたいなと思っております。

先ほど、森の芸術祭のレガシーを一つ見ていただいたわけでありますけれども、鳥取県の方では、ついに県立美術館が、この鏡野町からみますと、すぐ近くの倉吉にできたということで、アートの交流もこれから楽しみになってきているわけでございます。そういったことも含めて、今日は有意義な意見交換ができればと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○万代総合政策局長

ありがとうございました。続きまして、平井知事にご挨拶をお願いいたします。

○平井知事

皆様こんにちは。本日は伊原木知事、そして万代さんをはじめ、多くの岡山の皆様、このような素晴らしい機会を作っていただきました。

また先ほど、瀬島町長にわざわざお出かけをいただきまして、この向こうにあるヤマセミの像、「山に響くこだま」の像を見せていただきました。森の芸

術祭、大成功を収めたわけではありますが、伊原木知事をはじめ、岡山の皆様、また地元の市町村の皆様の大変なご尽力の賜物でありまして、本当に私も絶景の中のヤマセミの像に大変感動いたしました。

そのようなことで、今、伊原木知事がおっしゃいましたけれども、ぜひ、アートの意味でも、私達は絆を繋いでいくことができるんじゃないか、まだまだできる可能性があることを岡山県の皆さんが見せてくれたんだろうと思います。

瀬戸芸といって愛されている瀬戸内国際芸術祭、それがついに県北の山の方へやってきたわけではありますが、変わらぬほどの客を集めたことに、私達は、中国山地を挟んで大きな可能性を感じることができました。こういう素晴らしい環境の中で、私達ぜひ絆を深めて、ともに地域振興に向かっていければなどというふうに思うわけであります。

「かじかども分水嶺を何ばかり離れぬ山の溪にゐて鳴く」という与謝野晶子さんの歌がございます。離れぬ山の溪にて鳴くということであります。実は、奥津は私ども鳥取と近い関係なので、私も夫婦2人で奥津温泉に泊まったこともございます。そのとき奥津溪の方に遊歩道があって入っていくわけですが、そうするとそこに与謝野鉄幹・晶子の歌碑もございました。カジカガエルがここで鳴くんだなど、実は山を隔てた三朝というところも、カジカガエルの名所でございます。いろんな共通点があるのだなと思いながら当時入っておりました。奥津の温泉は素晴らしいところでありまして、泉質ももちろんですけども、しっとりとしたその風情の中に佇まいがございます。そんな意味で、温泉地を巡ったりして、県境を渡り歩いていただく、そういう素晴らしい観光資源なんだろうというふうに思います。この奥津温泉は、藤原審爾さんという方が、秋津温泉という小説を書かれて、それが映画にもなりました。藤原さんも名前がシンジで、良いお名前だなと思ってたんですけども、そんなことより奥津はしっとりした温泉でございます。

先ほどお話がありましたが、伊原木知事のお話を聞いていて、ふと思いましたけれども、このたび美作三湯芸術温度というアートフェスティバルをされているわけであります。美作の湯とかけまして、ここにあるハニーレモンと解きます。その心は、3つ（蜜）あります。どうもありがとうございました。

○万代総合政策局長

ありがとうございました。

意見交換に入る前に、お手元の飲み物を紹介するシナリオになっておりますが、お二人にご紹介いただきましたので、割愛させていただきます。それではこれより意見交換に入らせていただきたいと思います。

意見交換につきましては、伊原木知事に進行役をお願いいたします。

<意見交換>

文化・芸術等を通じた広域観光の促進

○伊原木知事

平井知事と両県知事会議をさせていただき、本当にありがたいことであります。勉強にもなりますし、それぞれにとって利益になってるんですが、唯一の心配事というかデメリットは、こういうすごい知事がいらっしゃるってことが、県内で報道をされると、県民の皆さんの知事に対する当たり前のレベルがグンと上がってしまって、1日一緒にいるだけで、残りの364日居心地が悪くなるっていうリスクを取りながら、毎回させていただいているわけですけど、挨拶の中でいろんな歌や句を織り込むという、私1期目のときに、けっこう頑張ったんですけど、私の処理能力が追いつかないということでございます。

それでは気を取り直しまして、最初の項目「文化・芸術等を通じた広域観光の促進」についてでございます。これについて私の方から、発言をさせていただきます。

県北地域では8月29日から12月7日までの間、美作三湯の温泉宿などを舞台に展開する回遊型のアートイベント、先ほど申し上げました美作三湯芸術温度を開催中でございます。

ここ鏡野町にある奥津温泉も会場の一つということでございます。これは4回目になるわけですが、今回31名のアーティストに参加をさせていただきました。過去最大規模で展開しております。会期が残すところ1か月ということでございます。

本当にいろんな芸術祭があるんですけども、温泉街でやる芸術祭は珍しいんじゃないかなという、芸術というと、普段よりちょっとおしゃれして行くという、気合を入れて行くことが多い中で、一番リラックスしている環境の温泉宿・ホテルでやっているっていうところが、その発想が私は最初聞いたときに気に入っているわけでありまして、それだけじゃなくて、実は今、県南では、岡山芸術交流、石川さんがされている現代美術の展覧会ですけど

も、さらに瀬戸芸の秋会期も同時に開催をされているということでございます。そちらでできました鳥取県立美術館、ぜひこれからいろんなことで交流をさせていただきたい、楽しみにしているところでございます。

去年行いました、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」。申し上げたように、20万人かな、できれば25万人来てくれると嬉しいなというふうに思っていたところ、52万人の方にお越しいただけた、2ヶ月で50万人、瀬戸芸がザクっと4ヶ月で100万人を超えていますので、1ヶ月あたりで言えば同じような話なので、本当にどうやっても届かないと思っていて、実際の規模、知名度からすると全然届いてないんですけれども、もう全く我々自身が比較対象に思っていなかった瀬戸芸と、ある切り口では、肩を並べることができたというのは、我々自身ちょっと驚いていまして、けっこうこの岡山県北部もしくは中国山地がアートっていう点で、人を惹きつけるポテンシャルがあるんだなということを我々が教えていただいたような気がしているところでございます。ぜひ、我々自身のポテンシャルを自分たちで決めつけることなく、いろんな可能性をこれから探っていきたいなと思っているところでございます。

鳥取県の皆さんとは、鳥取・岡山広域観光協議会、2009年に設立した協議会を使って鳥取・岡山ドライブマップを作った。また首都圏や関西圏で観光PRを一緒にしてきた。我々は、マップを使ってレンタカーの利用率の高い台湾にPRを行うなど、いろんなことをしてきたわけでありましてけれども、ぜひ今回、何度も申し上げますけれども、鳥取県立美術館の開館ということがありますが、先ほどお出迎えしてくださいました瀬島町長も、私どものトップミーティングにおいて、「ぜひ鳥取県の新しい県立美術館との交流を考えてほしい」というふうに私に言われたところでもありまして、アートを使った両県の交流など、これまで以上に考えていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

○平井知事

素晴らしいご提案を伊原木知事からいただきました。

私もこの森の中の景観であるからこそ、「山に響くこだま」という像が、大変印象深いものになったのではないかと思います。また、この森の芸術祭の成功というものを、これから岡山県さんも引き継いでいかなければいけないのだと思いますが、ぜひ、我々鳥取県側の方にも、同様のものが今後さらに整備されてくると思いますので、テーマを持ってつなげていければなというふうに思い

ます。

それで、実は今、鳥取県側の、先ほども瀬島町長がおっしゃった県立美術館というのが倉吉という街にあります。ここから行きますと人形峠を越えて30分かかるかかからないくらいだと思います。そこで、実は今年度はリクリットの野外彫刻を設けることにしています。参加型の現代アートで、そうすると、リクリットの作品をとっても、つながっていくんじゃないかなと思います。こういうことを今後、両県で力を合わせてやっていって、瀬戸芸で盛り上がっている岡山さんであります、山の方でも同じようにアートのそうした風を吹かして、地域おこしをしていこうということに我々の方も一緒になってゾーニングしていったら面白いんじゃないかなと思います。伺っておりました。

いろいろ共通することはございまして、例えば、ドライブマップを作りましたが、アートに着目して、それを周遊して巡り歩けるようなそういうものを例えば岡山と共同して作れば、私ども県立美術館とか、主要なスポットにそれを置いてもいいんじゃないかなという風に思います。そういう美術館やギャラリーは、蒜山あるいは、前連れて行っていただきました奈義の現代美術館などもあります。実は私どもは今回、楨文彦先生作の美術館なんですね。奈義町現代美術館は、磯崎新先生の作品で、蒜山の「グリーンブルヒルゼン」の方は隈研吾さんが作られました。

こういうのは割と建築好きな人にとって、非常にアーティスティックなそういう建物として巡り歩きたくなるようなものじゃないかなというふうにも思います。そんな意味で繋げて、中国山地を歩いていただく、そうした旅の仕方をぜひ提案していければいいなと思います。

また、体験型観光で、以前、蒜山でサイクリングさせていただきましたけれども、サイクルツーリズムでありますとか、それから歴史を訪ねるような弥生時代をはじめとしたそういう遺跡も両県にまたがっているところです。

おそらく昔は吉備のあたりとか一つの勢力圏があったはずで、弥生から古墳時代にかけてですね。私どもは出雲の文化圏の中にあって、こういうものが影響し合いながら、古代日本というのを発展させていたはずだと思います。そうすると、渡り歩いて見ていただくというのも、文化の振興にもなるし、旅のテーマにもなるんじゃないかなというふうに思います。

その他に鉄道とか漫画とか、関連した分野もございまして、そういうものも含めて、広域観光をぜひ進めていただければありがたいなと思います。

昨日か一昨日かNHKさんかどこかのニュースで話していましたが、岡山空

港と高雄、これがチャーター便なども非常に順調にいとっている。そういうこととあわせて実は鳥取側には台北のタイガーエアがようやく入りまして、おそらく周遊性というのも作りやすくなっているかなと思います。ここの彫刻も台湾のリョウさんでいらっしゃいますし、ぜひそうした意味で、海外の誘客にも、この文化・歴史あるいはサイクリングをはじめとした体験、これを生かしてインバウンドの誘客にもつなげられればと思っています。

○伊原木知事

どうもありがとうございます。ちょっとだけ付け加えさせていただきます。

お隣ですから、ある種当たり前ですけども、古墳時代から交流があり、それからすれば、直近って言うことでは、江戸時代の池田家のお国替えもあり、お国替えのおかげで私の先祖が鳥取県から引っ越してきたって言う、鳥取に私の先祖がいたままだったら、平井知事がいらっしゃれば私が立候補するって言うことにもならなかったわけで、こんな強い人があるのに、なんで自分が立候補しなきゃいけないんだみたいなことです。

いろんなつながりをぜひ生かしていきたい、ただ、つながりがあるけれど全く同じではない、山のこっち側向こう側って言うちょっとしたことで、いろんなことがちょっとずつ違う、カジカガエルみたいに同じこともあれば、その得意な果物がちょっと違ったりとか、もしくは導入した牛の種類が違うので、そこらはホルスタインでこちらはジャージーみたいな違いもあったりいたします。ぜひ、同じものと違うものをそれぞれ生かしていきながら頑張っていきたいと思っています。

繰り返しになるんですけども、海のポテンシャルについては、日本人は水の使い方、海の使い方が下手だっていうふうによく言われてきましたけれども、我々の近くで言えば、瀬戸内そちらでいえば日本海だと思います、海っていうのが、隔てるものじゃなくてつなぐものだっていうことを本当に実感することが増えてきたわけで、それが瀬戸芸、まさか海で、もしくは非常にアクセスの悪い島でっていう、それが世界的に有名なイベントになったというのも我々大変な勉強・気づきだったわけですけども、我々今回、森の芸術祭で、海でうまくいったらもしかしたら山でもできるかもしれないし、島でできるんだったら森でもできるかもしれないって言うことを、半分確信を持って、残り半分はおっかなびっくりでやっていたら、証明されたって言うほどのことなのか

わかりませんが、かなり可能性があるぞ、お客様もアクセスがなかなか難しいにも関わらず、果敢にお越しいただいたし、それぞれ世界的に有名な人もけっこう含んで、活躍中の方に来ていただいたっていうのもあるんですけど、リクリット・ティラヴァニさんとかジェンチョン・リョウさんが新しいのを作ったんだということで、ジェンチョン・リョウさんのファンの人がわざわざここまでたどり着いて、以前のこれとここが違うみたいな話をしていたら、いってっていうのは、なんか嬉しいなっていう。

さっきの建築の話もそうですが、我々の岡山県庁では、前川國男ですとか、私はこの建築家のファンなんだって言ったら、けっこうそこをぐるっと巡るのが聖地巡礼のようになっています。そういう方々のニーズを満たせるような段取りをしていくというのは、すごく大事だと思っているところでございます。

先日案内をしていただいた青谷上寺地遺跡、またどんどん復元する人の数が増えていって家族みたいな感じになっています。そういった元々あるものをいかにみんなが興味を持てるようにショーアップしてアピールしていくのか。それも勉強になりますし、それとどう関連づけて、お互いの交流を図っていくのかっていうこともぜひ頑張っていきたいなと思っているところでございます。

ぜひ、我々の方で作った人流で、何かそちらに恩恵があることがあるんじゃないか、もしくは我々が恩恵をいただくこともあるんじゃないか。いろいろ考えていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

AI 倫理・情報リテラシーを踏まえた業務効率化に資する自治体専用生成 AI 利用環境の共同研究

○伊原木知事

それでは次は、グッと最先端の話題に移るわけではありますが、「AI 倫理情報リテラシーを踏まえた業務効率化に資する自治体専用生成 AI 利用環境の共同研究」ということでございます。

平井知事からお願いします。

○平井知事

まず今、伊原木知事がおっしゃられましたように、アートの面で、あるいはその他の芸術や文化、体験事業など、ぜひ交流を広げていきたいと思いますので、ぜひ岡山県さんと具体的な協議を今後させていただければと思います。

例えばいろんな彫像だとか、野外で見られる展示だとか、それからそうした

美術館をはじめとしたいろんな資源がありますけども、これ県境でたぶん途切れちゃってると思いますので、つなげるということを手っ取り早くはネット上で、そういうアート巡りをしますというような、こういう県境地域でやるとかそういうことを例えばできないかなと、今お話を伺っていて思いました。実際プリントアウトして、PDF からですね、マップにしても出せるかなと思いますし、それは実は我々も 3 年ほど前ですかね、森芸とか、こちらの方でも県民向けの先行配布の、そういう県政だよりに掲載させていただいたりしておりました。いろいろと共同して盛り上げることは可能だと思いますし、できれば台湾から来るとか、そうした方々とかが興味を持っていただけるような仕掛けを考えられないかなと思います。

また先ほど、森の芸術祭の大成功のお話がありましたが、これもまた次回があるのであれば、私どももちょうど道路でつながってますので、向こう側とつなげてやれるような仕掛けも、今後、また相談させていただければありがたいかなというふうに思います。

きっとこの森が、生まれ変わるきっかけになるとと思いますのでどうかよろしくお願い申し上げたいと思います。

その上で伊原本知事の方からお話のございましたけれども、AI とか、あるいはデジタル化につきまして、岡山県さんが先進県でいらっしゃいますけれども、これまでも一緒にタイアップしてやってきたことがありますので、その幅を広げられないか、今日のご提案をさせていただければと思います。

私達は両県で情報ハイウェイを作っていた時代がありました。もう 20 年ぐらい前だと思います。岡山県さんは非常に早い段階で情報ハイウェイを作り、我々も情報ハイウェイを日本海側の 9 号線という国道下に埋設をする形で一気に広げていきました。それをその後、トータルでループ状に繋げて、私達、デジタルでは一つのゾーンを形成することができました。それに基づいて、例えばセキュリティ対策であるとか、協働してやれることが、サイバー攻撃に備えるということもあるんですけども、それだけでなく、ホームページをお互いに補助できる、種を明かせば、両県でそれぞれのホームページをそのまま補完して、お互いに持ち合うことで、災害時には、鳥取で災害があれば岡山のホームページを、こんなところに実は鳥取のホームページがあって、そっち側で見れるというような仕掛けを作ったり、他の地域にはない連携を進めてこれたと思います、本当に感謝を申し上げたいと思います。

それで今 AI についてどうしようか、こういう新しい次の時代は、おそらく

こことどう付き合っていくかが大事になるというふうに考えてまして、結論から言うと、共同でいろいろ研究したり、あるいは枠組みを作ったりっていうことはできないかなということでもあります。RAGと言われるような手法があります。鳥取県ではAIについてはChatGPTが話題になったとき、それよりも実際県民の声を拾う方が大切で、リアルなお仕事を大切にしようという意味で、「ちゃんとじーみーちー（地道）」と言ったら、これがネットでバズってしましまして、えらい叩かれましたけども、なんちゅう田舎は時代遅れなみたいなことを言われたんですが、それは片方でやはりAIに対するやっぱり警戒感っていうのはやっぱり正しく持つ必要があると、そういう意味では評価された面もありました。その後、鳥取県ではAIの使い分けを工夫しております。

今、AIを県庁の中では一定の領域のことだけ読み取らせて、それでその中で勉強していく。人工知能としてのAIを活用すると、中の情報が外に漏れない、プライバシーとか、行政情報の漏洩にならない。また、他から読み込んで著作権の問題とかが出ない。そういう一つのサイバー空間を形成するっていうやり方をして、AIを活用しようというふうにしております。これを広げるとRAGと言われるようなそういうやり方に繋がってくるわけです。例えば、我々が行政を運営する上で必要なシステムがあります。それにAIを活用しようとした場合に、どの範囲を学習させるか、ということで、情報を食べさせるっていうようなイメージなんですけど、その情報を食べさせるところを、岡山鳥取両県で共同して、県庁の仕事っていうのは似たような仕事でありますので、そういうものを設定して、どういうことができるのか、たぶんこれやってみないとわからないことがいろいろありますので、共同で研究できないかなということでもあります。

同様に最近注目されてるのはAIエージェントという手法であります。AIで例えばアウトプットを出させるにあたりまして、いくつかの機能を組み合わせてやっていく、そういうやり方を今、次世代的に始めてきているんですね。おそらくこれも今後至急になりうる話だと思います。こういうふうなところに一緒に、研究領域を作っていって、それをうまくすれば両県合同で、そういうものをシステムを使うことができるようになるんじゃないかというようなことであります。こういうようなことをやる際に、一つだけ私の方もちょっとこれまでの経験をお願いをさせていただきたいなと思いますのは、鳥取県は自治体デジタル倫理原則というのを制定させていただきました。慶応大学の山本先生という、最近よく登場する先生がいらっしゃいます。憲法の先生なんですけど、こ

うした情報化時代における例えば人権を侵害されるような問題があると思うんですね。それからいろいろと情報漏洩的な形の問題だとか、いろんなことがあるわけですから、無原則に情報化だから素晴らしいのでどんどん使おうっていうことではなくて、いわば車がだんだんと発達しているときに、道路交通法みたいな交通ルールができて、それで人を殺めることにならないように車を運転するわけです。それと同じように、こうしたデジタル社会の中でそのツールを一つの倫理・道徳の中でちゃんとやっていきましょう。そういう意味で、AI もその派生の実は県内のいわば行動を作りまして、そういう効用の中で運用させていただいております。できれば、そうした共同研究をするにあたりまして、行政の節度として、あるいは県庁マンの節度としてこういうようなことは注意をしながら、AI を活用しましょう。そのAI は、危険性がないように、あるいは個人情報漏れるようなことになったり、不適切なアウトプットで、それぞれの職員が、やってはいけないことをやらされてしまうということがあり得るので、そうしたことをお互いにちょっと一つの体系を、質として取り入れられないかなということでもあります。

ちょっと専門的な話もあって、ややこしかったかもしれませんが、要は共同でやりませんかということですので、よろしくお願いを申し上げます。

○伊原木知事

どうもありがとうございました。

一旦はAI に背を向けたのではないかっていう方が、ここまで詳しくなられているということで本当に感銘を受けながら聞かせていただきました。私が言おうと思っていることとほぼほぼ同じで、結論からすると本当にそうだなと思っております。

とにかく人手不足でもやるべきことが多いっていうときに、この日々進歩しているAI を活用しないっていうのは、電気ができたときに、コンピュータができたときに、我々はこれまで通りでやってこれてますからっていうのに近いぐらいのことなのかなというふうに思っています。ただ、最初電気を使い始めたときに、電気があるから火事が起こるんだとかがあったように、新しい技術には新しいこれまでわからなかったリスクがあります。例えば絶対に出しちゃいけないような個人情報が大量に漏れてしまったとか、もしくはハルシネーションに気がつかずに全く間違っているのに正しいと信じて、それをベースに、

大事な決断をして、気づくのにはずいぶん時間がかかったなど、いろんなリスクがある中で、どのリスクを本当はかなりコストをかけてでも、もしくは我々の自由度をある程度制約をかけてでも整理に行くのか、このリスクについてはしょうがない。新しいことをやるんだったら、これぐらいのことはもう目をつぶらないと試行錯誤できないよねっていうことの、事前のいろいろな考えてあらかじめ決めておくっていうのが非常に大事なんだろうと思います。私自身、とにかくその情報漏洩のリスクがあるので、先ほど言われた、何を食べさせるのかっていうのをすごく大事なんですけど、そういうリスクがない場合はもうどんどん使っていこうねっていうことで、ついこの5月に幹部職員向けの研修会をやりまして、絶対出てくれよと、それぞれ使っていこうっていうことでずいぶん研修をする前と比べてそれぞれの職員の使う頻度が増えているっていうことは、私も報告を受けていますけれども、私自身もまた別口で使わせてもらってます。ただ、昨日と一昨日たまたまですけど、2日連続ハルシネーションに騙されました。個人的に味を変えちゃうことがある。やっぱりこのAIのすごく悔しいところは、自信がないんだったらそれらしい回答を教えてくれれば、多分こうですぐぐらいに教えてくれればいいのに、あたかも物理法則のごとくこうですっていうふうに、しかも私がちょっとここんどこ心配なんだけどもって言うと、いや何を言ってるんですかこれ関係ありませんよっていうことで、進めていったら、やっぱりそれは関係があって違ってたと、わざわざここ注意ポイントって言ったじゃんって、そういう騙され方をするので、私はChatGPTの課金して高いやつ使ってるのに、それでこうなるかみたいな感じで愚痴ですけど。

でもこれは私がちょっと間抜けに見えるぐらいのことでありまして、そういういろんな試行錯誤を続けながら、行政として、どこでどういうふうに使っていけるのかっていうことは、本当に試行錯誤すべきですし、それを我々だけでやるんじゃなくて似たような立場の別の組織と意見交換できることで、私、社長のときに、この社長同士の勉強会、数名の勉強会が非常に有効に機能したことと同じようなことが起きるんじゃないかと思っています。5月に研修会をしてからのこの半年弱でも、AIに関しては、これができるようになった、こんな新しいバージョンができたって、本当にこういうのを日進月歩って言うんだなっていうようなことが起きています。ぜひ、セキュリティクラウドと一緒にこれまでも構築運用してきた鳥取県の皆さんとAIについても、共同研究していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

交通ネットワークの利用促進と維持・存続

○伊原木知事

それでは、早くも最後ということでもありますけれども、「交通ネットワークの利用促進と維持・存続」ということでございます。

こちらの方は私の方から発言をさせていただきました。

まず鉄道のことなんですが、地域の基幹的・広域的な公共交通ということ、二次交通を支える重要な存在でありまして、その維持が今、全国的な課題になっているわけでございます。鳥取県さんとは、因美線・津山線近代化促進期成同盟会を通じまして、この JR や国に対して、路線の維持を働きかけているということでもあります。何とか因美線を盛り上げようということで、オリジナル硬券切符の配布をしたりですとかスタンプラリーをしたりといろいろと取り組んできました。今月 2 日限定で運行された観光列車「あめつち」、それぞれの沿線自治体が、それぞれのおもてなしを行って、大変好評だったということを知っているところでございます。また、智頭急行さんでも、イベントへの出展や情報発信を行っているということを知っているところでございます。

県をまたぐ路線ってということで言えば、当然、岡山県だけでやっても効果が薄いわけでございますので、ぜひここは鳥取県さんと、これはもう、こんなところで言わなくても当たり前なんですけれども、ぜひ一緒に頑張っていきたいと思っているところでございます。

道路なんですけど、これ本当にありがたい話で、毎回ここで話題にさせていただいてますけれども、岡山米子線は長らく暫定 2 車線で留め置かれていたわけなんですけども、ようやく 4 車線化が始まりまして、着々とパズルのピースを埋めるように、工事を進めていただいて、本当にまず全て 4 車線化の整備が決まったってということと、工事も進んでいて、今はできていないところがむしろ目立つような状況になってきているということで、本当にありがたく嬉しく思っているところでございます。できるだけ早くやっぱり全線 4 車線化したいということで、NEXCO 西日本さんをしっかりご支援をするということで、両県で共同で進めていきたいと思っています。スタンプラリーを今年 7 月から始めて来年の 1 月までっていうふうに聞いています。また海山マルシェで、NEXCO 西日本さん、それから沿線の自治体の皆さんと一緒に PR をしているということです。そちらの方からお話があるかと思いますが、米子インターまではそういうことで、きちんとできているわけなんですけれども、そこから先の

境港までの 21 キロがこれまであんまり注目を集めてこなかったということですが、これについて我々も認識をしておりますので、ぜひ境港から岡山にスムーズに移動できるように頑張っていこうと思っています。

○平井知事

ありがとうございます。伊原木知事から交通などにつきまして、また新しいお話をいただきました。大賛成でございます。

AI やデジタルの問題につきましては、伊原木知事にもご賛同いただきましたので、どういう範囲でそういう協力ができるか、RAG の設定や AI エージェントの試行等ですね、まずは実験的にやらないといけないと思います。私ども実は庁内でそうした AI の活用プロジェクトをちょっとやりかけたんですけど、なかなかうまくいくものではないですね。それで、やはりただ、片方で技術が進歩していきますので、その辺で本当に使って安心なものができるかどうか、伊原木知事をハルシネーションでだますようなことにならないようにして。そういうことをやはりよくちょっと研究をして、そういった上で実用化していかなくちゃいけないと思うんですが、今、国の方は「源内」という生成 AI の導入をデジタル庁が進めたところでございまして、国の各省庁もそういうことから今起き始めると思いますので、我々地方もまずは一步一步進めていければと思います。

交通につきましては、今おっしゃったことは全く同感でありまして、ぜひ交通ネットワークの活用、それからそれに向けた整備に、両県共同で声を上げていければと思います。

今おっしゃった中の例えば鉄道ネットワーク、岡山県さんの中にもいろんな場面があると思います。私どもも山陰本線を含めて、そうした対象箇所、JRC の方からリストアップされていますが、特に因美線、津山から鳥取の智頭に至る、これにつきましては、かねがね懸案でもございました。ただ先般公表されました昨年の搭乗数の関係からしますと、137 人というご利用で、その前の年より増えています。それはまさに伊原木知事がおっしゃいましたけれども、例えば「SAKU 美 SAKU 楽」という非常に人気のある列車を岡山県側で動かしていただけてますし、今回は我々も「あめつち」を米子の支社の方をお願いして、因美線に投入しました。それから沿線でも津山市を中心として、運動を展開されてまして、我々は共同をしていますが、市町村レベルでも、実は共同で利用促進を図ろうというのが、県境を跨いで動いてきています。別に JR さんに

何とか無理を強いようというわけではなくて、やはり地元も協力して、やはりこの鉄道資源の大切さっていうものをみんなで認識して、利活用しながら収益性を上げていくというのが、まずもって重要だと思いますので、ご協力いただければ大変ありがたいと思います。

また併せまして、利便性のことで言いますと、両県を結んでおります、例えば智頭急行線、さらにその向こう側の因美線、そして鳥取県の方の島根に続く山陰線等ありますが、実はICOCAがまだ十分導入されていないということです。これも地元として要請をさせていただいて、やはりそうした利便性を高め、鉄道の旅がやすいようにしていければと思います。

また伯備線沿線も、この度ブルーリボン賞の取得が特急やくもで決まりまして、近々そのセレモニーもあると伺っております。ブルーリボン賞取れるぐらい人気のある車体が、岡山駅からずっと島根の出雲市駅まで、動いていくわけでございます。こういうことに合わせて例えば智頭急行の方も、車体の更新の時期に入ってきてまして、株主であるという岡山県さん、私どもも株主ですが、協議をしながら先に進めるそういう年限が近づいてきました。伯備線のときの経験からしますと、特急の車体が入れ替わるとき、その古い車体を見に来るといいうすごいインセンティブが働く、鉄道マニアの方ってそういう方がいて、我々としては、また今後、共同でキャンペーンをしていくこともできる時期に入るかなというふうにも思っております。こういうことをいろいろとやりながら、鉄道の利用促進を両県で進めていければと思います。

道路につきましても、米子岡山のいわゆる米子道、中国横断自動車道、これについてはまた来月決起大会をやって4車線化を共同で打ち上げていければと思います。沿線の総社だとか真庭だとか、毎回大変多くの方もこられてまして我々も大挙していくことにいたしておりますので、ぜひそうした形で高市新政権になりましたが、その重要性を政府に訴えていければと思います。その際、伊原木知事にもご発言いただきましたけれども、米子の終点から先の島根半島に向かうところが、まだ未整備区間になってますので、これも道路ネットワークを繋ぐことは、沿道の全地域に影響があるし恩恵もありますので、ぜひ岡山県さんのご協力もいただければというふうに思います。

この度、万博がありましたけれども、インバウンドのお客様も含めまして、けっこう車で来られる方が増えてきています。そういう方々向けにNEXCO西日本様も割引の周遊チケットを出したりされるようになってきておりまして、そういうことを通じて、先ほどおっしゃるように蒜山のサービスエリアですと

か、いろんなところでキャンペーンを共同でさせていただきまして、そういう高速道路を活用した周遊観光の促進を図っていければというふうに思います。

新政権が誕生して、これから補正予算があると思いますが、ぜひ、高市新政権にも我々共同して働きかけて、例えば国土強靱化の 20 兆円の中期計画が前倒しをして、補正予算にも一部計上していくなどですね、こういう道路ネットワークの整備について後押しを政府にも求めているというふうに思っております。ぜひ伊原木知事と一緒にタッグを組んでやってまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

○伊原木知事

全国知事会の会長を務められた平井知事と一緒にすると、ずいぶん岡山県単独の影響力よりも大きなインパクトを持って、国に対して働きかけることができますのでぜひこれからもよろしくお願いします。

<合意事項>

○伊原木知事

では、用意しました議題については、全て終了をいたしました。

本日合意しました内容をまとめたものがございますので、私の方で読み上げさせていただきます。

三つございます。

「文化・芸術・歴史文化遺産等を通じた広域観光の促進」についてであります。開催中の美作三湯芸術温度や今春開館した鳥取県立美術館をはじめとした両県のアートイベント・アートのスポットの情報発信、体験型観光やサイクルツーリズムをテーマにした広域周遊の促進、弥生時代をはじめ歴史的に関わりが深い文化遺産の調査研究や魅力発信など、さらなる広域観光の促進に向けて相互に連携して取り組み、国内外からの誘客拡大につなげていきます。

次に、「AI 倫理・情報リテラシーを踏まえた業務効率化に資する自治体専用生成 AI 利用環境の共同研究」についてであります。両県の DX を加速させるため、AI 倫理・情報リテラシーも含めた様々な情報やノウハウを共有し、最終的な判断は人間が行うという人間主導を前提とした自治体としての AI ガバナンスや、公共サービスの維持・強化・業務効率化に資する生成 AI 利用環境について共同研究に取り組みます。

最後に、「交通ネットワークの利用促進による維持・活性化と早期整備」に

関してありますが、両県の相互交流を支えるとともに、地方創生・国土強靱化の基盤となる因美線・智頭線・伯備線など鉄道ネットワークの維持・活性化や、中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化、米子・境港間の早期事業化の実現などの高規格道路ネットワークの早期整備に向けて、両県連携による利用促進を更に進めるとともに、国等へ働きかけていきます。

読み上げさせていただきました。

○平井知事

ありがとうございます。

どうぞよろしくお願いします。

<閉会>

○万代総合政策局長

それではありがとうございました。

続きまして、記念撮影を行わせていただきたいと思いますので、両知事机の前の方へお願いをいたします。

パネルを持って記念撮影

ありがとうございます。それでは、お席の方へお戻りいただけたらと思います。これをもちまして令和7年度岡山・鳥取両県知事会議を終了させていただきます。

<記者会見>

○万代総合政策局長

引き続きまして、記者会見を行わせていただきたいというふうに思います。

ご質問をされる方、恐れ入りますが、社名とお名前をおっしゃっていただきまして、ご質問をお願いいたします。どなたからでも結構でございます。

○山陽新聞

山陽新聞社の吉川と申します。

生成 AI についてなんですけれども、今回、たぶん両県知事会議で生成 AI のお話をされるのは初めてかと思いますが、改めて自治体で生成 AI を活用することの意義や今回お話をされた趣旨を教えてくださいませんか。

○伊原木知事

とにかくそれが電話であれ、FAX であれ、新しい技術が出てきたときに、私は関係ないっていうふうにするのか、それとも取り入れるのかということなんですよね。私自身は新しい技術で、この県政に活用できるのであれば、積極的に活用していきたいという、まず最初のスタンスがそこにあるわけです。

ただその使い方を間違えると、もう大変なトラブルを巻き起こしたりするわけありますので、どういうリスクは許容をして、どういうリスクについては絶対に起きないようにするのか、もしくは極力起きないようにするのか、そのためのコストはどこまで許容するのか、そういったことについてきちんとあらかじめ考えておかないと、試行錯誤っていうのは、ある程度のミスを許容する考え方なんですけれども、こんなことになると思わなかったって言って、県民もしくはそのほかの方々に取り返しのつかないご迷惑をかけてはいけないので我々自身、どういう情報を食べさせるのか、我々の内部の情報をどこまでだったら出していいことにするのか、そこはまずすごく大事なことになるわけですけど、そういったどう使うのかっていうことについて、我々自身でも今考えているわけなんですけども、それをぜひ両県で共同研究することによって、よくある自分で作った原稿のチェックは自分ではなかなかわかんないっていう自分で当たり前になってるのでっていう、他人が見ることで、これちょっと危なくないですかとか、このリスクについてちょっと考えていないように見えるんですけどどうですかっていうのを、我々でもやろうとしていることではあるんですけれども、非常に勉強熱心な鳥取県さんから教えていただくことでより我々も自信を持って、AI を使えるようになるということが、我々から見たメリットであります。

○平井知事

私も実は AI については一定の距離感を持ってこれまでも接してきました。私もデジタル対策の会議に知事会長をしたときに反対してます。当時、岸田さんっていう総理大臣がおられたんですけども、それで直接 AI に、面白いからちょっと尋ねてみようと、岸田さんはどこの高校出ましたかって言った

ら、福岡の高校だと。岸田さんは私の高校の先輩のはずけどな、それを実はリモート会議で披露させていただいて、岸田先輩も笑っていましたが、要はハルシネーションが起こるということで。

それから厄介なのは、やはり情報を実はいろんなところで集めて、それでAIはあると思うんですよ。それで、例えば人権侵害したとか、あるいは人の傷つけるようなことをやる、出してしまうとかですね、そういう問題があることもまた事実なんですね。ですから、私どもはAIであってもやはり人間が主導して、きちんと行政であれば、やはり行政として責任持てるようなアウトプットが出るように、いわば訓練といいますか、教育していかなくちゃいけない、そういうもので、AI というものを使うのであれば安全性が大事じゃないかなという発想なんですね。ですから、私ども AI 原則というのはええ愛と書きましてですね、人間の愛、愛情を持ってということを考えるわけです。実は岡山県さんとは、今までもこういうデジタル化ではいろいろと教えていただいたり、ネットワークをつないだり、共同でシステムを開発しまして、大幅に安上がりで両県でアウトプットを得たりしてまいりました。この AI の分野でもそうした協力ができないかなということです。

先ほちょっと申し上げましたが、RAG という手法については、実は岡山県さんのデジタルの部局の方でも、今そこの研究を始めておられると。例えばどういう領域で AI に情報を食べさせるか。それを今、実証的に始めておられると。我々も実はちょうどそういうことも今やりかけているんです。そういう意味で共同でそうしたことをやれば、ある意味、都道府県行政の普遍的な AI の知恵、要は人間の頭脳でありますので、その頭脳もその県庁マンとして育てた、そういう AI っていうのができないかなっていうのが理想です。ただそこはなかなかですね、一気に難しいかもしれません。しかもいろいろと手間もいろいろかかりますし知恵も必要なので、こういう分野に長けた岡山県さんの力をいただきながら、共同で研究できないかな。こういう趣旨でございます。

○山陽新聞

ありがとうございます。最終的に目指すところは、共同で使えるシステムの構築みたいなのところになってくるのか、ちょっとゴールがわからないのですが。

○平井知事

共同で AI の一つの体系を作ってですね、岡山県さんの職員も使えるし、

我々も使える、場合によっては、住民が AI を活用して行政の情報を調べることができるという辺りが目標です。ただ、これたぶんまだ国も今、「源内」ということを始めたばかりでして、まだ成功の確証があるわけではないと思うんですね。

○伊原木知事

例えば光ファイバー網を作るとかっていうのは物理的実体があるじゃないですか、何かそういうものを作ろうっていうんじゃないで、もう本当に日進月歩でどうなるかわかんない、それぞれが今試行錯誤中のときに、自分たちで試行錯誤をするだけじゃなくて、お互い相談し合って、何かより良いものをそれぞれ例えばルールを作って共有するだとか、どういう形に発展するかどうかは別として、ぜひお互い相談し合うところから始めましょうっていうふうに認識をしています。AI が 3 年後どれぐらい能力があって、使えるのかっていうのはわかんないわけですので、まだ最終的な形を今カチッと作っているわけではありません。

○山陽新聞

生成 AI の活用を進めている、そもそもの背景として、職員の人手不足とか何かそういったところもあったりするんでしょうか。

○伊原木知事

私の中では、そうです。いろいろ県民の皆さんからのご要望っていうのは、本当いえば、職員の数があと 2 割 3 割いればなということとは多々あります。その一方で、教職員が一番顕著でありますけれども、けっこう残業で何とか回してきたけれども、その残業っていうのは、お金払えばいいっていうことじゃなくて、働き方改革、子育てしやすい職場環境ということからすると、それは減らさなきゃいけないよねっていう、いろんな要望・条件を両立させるためには、いかに 1 時間当たり賢くいい働き方をするかっていうときに、AI っていうのは別に神様でも何でもなし、未だにハルシネーションをけっこうバンバン出すわけですけど、すごく優秀な県庁に採用できるような人だって、新人の頃はミスをいっぱいするわけでありまして、中堅になってもミスすることはあり、私だってミスするんですが、でも、それでも時々ミスはするけれども、すごいスピードでいろんなものをまとめてくれたり、読み込んでくれたりとか、抽出

してくれたりするっていう、これまでもいろんなコンピュータでそういう機能を使いましたけども、それを統合した形でより便利になってきている。これを使わない手はないでしょう。場合によっては本当にものすごい人手がかかっていたことも、さっとやるような個別の分野もでてきていますので、ぜひこれをもってコストを抑えながら住民サービスの向上を目指すということで、全く無視するっていうのはこれあまりにもリスクある決断だなと思っております。

○平井知事

例えば、庶務業務などに我々は可能性を見いだしてまして、会計処理とか、そういうのもすごいペーパーワークがあったり、そこに財務規則っていうのは各県でございます。そういうものにちょっと反すると、それは手続きが不適切ですよって会計検査で指摘されちゃったりするわけですね。ですから、そういうことがないように、正しく会計処理を、要はある意味自動化してやっていくことができれば、今庶務業務に当たってる人を、例えば福祉とか、あるいは建築関係とかですね、いろんな行政分野で活用することができたりします。しかもそれが正しければ、正しいものが出るのであれば、人間はミスを犯しますので、人間がやるよりもそうした会計処理なんかが正確になるかもしれません。その辺をまだ確証はないんですけど、チャレンジしてみようと典型的にはそういうことで、人手不足の解消や能力の活用につながる。それがまた行政事務の適正化につながるというふうにもう想定しています。うまくいくかどうかかわからないですけど。

○山陰中央新報

山陰中央新報の岸本と申します。先ほどのAIの関連でお尋ねするんですけども、今回共同研究をするのはあくまで仕組みであって、生成AI自体を開発するというわけではないということによろしいでしょうか。

○平井知事

生成AI自体は、世界的に作られたそういうプログラムがあるんですよね。そこに例えばどういうように簡易設定をして、情報を注ぎ込むことができるか。そこを一つの研究領域として考えることになると思います。

それによって岡山県庁、鳥取県庁の中で使われなければならない情報だけが出てくる。そこに例えば、インターネット上は嘘がいっぱいありますので、そ

ういうものを取り込んでくるとアウトプットがおかしくなると、また逆に言えば、県庁の中の機密情報が漏れ出してしまう。そこを遮断した上で、やれるかどうかというのが勝負どころだと思っています。

○山陰中央新報

研究期間については、いつぐらいからいつぐらいまでというふうにお考えでしょうか。

○平井知事

着手することを今日以降、望めればということでありまして、それ以降は岡山県さんと共同歩調で慌てずに焦らずにやっていかなければいけないと思っています。

○NHK

NHK 岡山の諸富と申します。ホストの伊原木知事からお答えいただきたいんですが、今日はあいにくの雨でしたが、視察をして、今日も例年と同じように会議を設けました。会議を終えた所感について、聞かせいただけますでしょうか。

○伊原木知事

雨が降ってしまったことで、この鏡野町の素晴らしい景色を絵としてお伝えが、別にできないわけではないですけども、でもやっぱり晴れているときの方がよっぽど綺麗な映像をお伝えできる、その機会がなくなったっていうのは残念なんですけれども、でも毎年のように、両県知事会議を鳥取県さんとさせていただくことによって、本当に我々自身が勉強になっていますし、また今日もお話をしました、例えば鉄道のこと、道路のこと、もしくは文化的な交流のこと、観光のこと、隣接した鳥取県さんとは悩み事がかぶっていたり、もしくは協同することで単独でやるよりも成果が出せることがたくさんございます。毎年お会いしているのに、これで大体全て解決したかな、あと2・3年は会わなくて済みそうだなみたいなことにならないぐらい、本当にいろいろな機会が、もしくは問題があるんだなっていうことを、今回も準備段階から考えていたところでございます、本当に今回もお会いすることができてよかったと思っています。

○NHK

最初の広域観光の促進について、お二方それぞれで伺いたいんですけども、まず伊原本知事にお伺いします。

会談の中で、瀬戸芸が今まさにやっている中で、海の方が盛り上がっている中で、山の方もという話もありました。そのあたりで山の方のそういう盛り上がりというのは県全体にとってもすごく意味のあることだと思うんで、そのあたり今後の期待感っていうのちょっとどういうふうなものでしょうか。

○伊原本知事

そもそも瀬戸芸自体がチャレンジだったわけですね、福武会長がお持ちのいろいろなコレクションを、普通に考えれば、岡山駅から近い、行きやすいところで展示した方がたくさん人が集まるだろうというふうに思うんですけども、あえて岡山駅や岡山空港から1時間以上かかるような、そもそも船じゃないとアクセスできないような島に置いたと。見に来るんだったら、ちゃんと船に乗って来てねっていうことをしたにも関わらず、全国から、世界中から人が集まった、1回だけだと思ったら、2回目・3回目も大盛況だと。というところが一つ我々からすると学びになったわけですが、アクセスが多少悪かったとしても、非常に興味深い、素晴らしい作品を集めることができれば、人は来てくれるんだと。もしくは、そこに行くまでを楽しんでくださるような方がわざわざじゃなくて、けっこういらっしゃるんだと、岡山県が全国の中でアートの造詣が深い県だっているというふうに思われているかどうかわかりませんが、我々自身がそこまでたぶん思っていなかった人も多いと思うんですけども、実は地域に人を呼ぶことができるんだっていうことを、この瀬戸芸で我々がわかったことを、海じゃなくて山でも、島じゃなくて森でも、再現することができたということで、我々にとって、もしくはこの岡山倉敷以外の周辺地域の人にとって、大変勇気づけられる展覧会だったのかなと思っています。あまりにもインパクトが大きかったので、3年後ももう1回やろうっていうことになったわけでありまして、ぜひこういったコンテンツをうまく作れば、我々のところは人が来ないんだとか、こんなにアクセスが悪いんじゃ、もう工夫のしようがないっていうふうに半分諦めている方、もしくは場所にも、いやいや、工夫次第だと思いますよ。ていうメッセージを伝えられたのかなと思います。

○NHK

平井知事にも広域観光のことについて伺いたいんですけども、会議の中でもお話がありました、まさに美術館ができて、なおかつ台湾の台北便も就航してこのタイミングで広域観光について、今日話し合ってこれから進めていくという、そのあたりの意義についてお聞かせいただければと思います。

○平井知事

本日は、伊原木知事にご案内していただきまして、こちらの方で「山に響くこだま」という作品を拝見させていただき、瀬戸内国際芸術祭の次に森の芸術祭も成功に導かれたこと、その良いインパクトを体験させていただきました。

私も鳥取県でも県立美術館をこの度、倉吉にオープンして半年余りということになりました。この間、佳子さまや彬子さまといった方々のご観覧もいただき、観客数も順調に想定以上の伸びを示しております。そういう意味で、アートをこれから地域振興の基軸に据えることを目指す中で、岡山県さんのこうした成功を私達も一定程度共有させていただく可能性というのを今日感じたところであります。ぜひ、例えばどこにそうしたアート、これを見ることがいいのか。それは建築物も含めて、あるいは漫画とかのそうした素材も含めて、両端ありますが、これをもっとネット上だとか、あるいはペーパーでも示すようなそういう共通化・見える化を図ることから始めて、できればそうした芸術祭などに県境を超えても、我々も協力、参加していくということも考えていければなというふうに思います。瀬戸内国際芸術祭、森の芸術祭の成功から学んだことがあるとすれば、それは今までとは違って、わざわざ遠くであっても見に行くっていうことを、皆が行動として示したということだと思います。そういうわざわざ森の中へ、山の中へ見に行くということであれば、そういう人たちがぐるっと回れるようなそういう環境を作ることによって新しい観光需要や文化・芸術ファンを増やすことができるのではないかと思います。

○万代総合政策局長

それでは時間もだいぶ過ぎておりますので、これをもちまして記者会見を終了させていただきたいと思います。全体を通しまして終了させていただきたいと思います。